

第8回藤沢市地域経営戦略100人委員会

と き 2010年(平成22年)4月18日(日)
午後2時～4時30分
ところ 藤沢市役所新館7階第7会議室

次 第

- 1 開会
- 2 新総合計画基本計画策定における地域経営戦略100人委員会及び地域経営会議の役割について
- 3 基本計画策定の詳細スケジュールについて
- 4 「気づき」の活用方法について
- 5 アンケート案について
- 6 その他
- 7 閉会

事務局
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

地域経営戦略100人委員会

藤沢市新総合計画

「私たちの政府」
基本計画の
フレームと考え方

2010年（平成22年）4月18日

目 次

1	基本計画の位置づけと視点.....	1
(1)	基本計画の位置づけ.....	1
(2)	基本計画の視点.....	1
2	基本計画の構成と内容.....	2
(1)	基本計画策定に当たっての考え方.....	2
(2)	基本計画の構成.....	2
(3)	基本計画の内容.....	3
3	基本計画における「ふじさわ未来課題」の導き方.....	4
(1)	「ふじさわ未来課題」の定義.....	4
(2)	「ふじさわ未来課題」の導き方.....	5
4	基本計画の評価・見直し.....	6
5	策定プロセス.....	6
(1)	「ふじさわ未来課題」の確定.....	6
(2)	「ふじさわ未来課題」の重み付け.....	6
(3)	基本計画案の策定.....	6

新総合計画基本構想において、市民、地域と行政とが手を携えて課題に立ち向かう「私たちの政府」を築き、市民主体の藤沢づくりを私たち自身の力で進めていくことを宣言しました。

そして、その活動によって、安心して着実な生活と豊かで暮らしやすく、持続可能なまちを形成し、藤沢で暮らすことに誇りを持てるまちをつくることになること、また藤沢が子や孫やさらにその将来の世代まで住み続けたいまちとなることを追求していきます。

この「私たちの政府」による活動を実践するためには、理念や目標、情報、対象といった基本的な枠組みを市民、地域と行政が共有する必要があります。

新総合計画基本計画では、このような藤沢づくりのために必要な、将来像の実現のための施策となる戦略目標、政策などの事項を示します。

1 基本計画の位置づけと視点

(1) 基本計画の位置づけ

この新総合計画基本計画では、基本構想の理念、方向性などを受け、都市ビジョン、将来像を実現するために必要な市域全体や地域の戦略目標や政策及び地域づくりのための仕組みと進め方、中長期財政計画、進捗管理などを示します。

(2) 基本計画の視点

「私たちの政府」の仕組みの骨格と視点は、次の2点です。

ア 新しい公共

市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業等の知恵と力を集め、民間と行政とのパートナーシップを強化し、それぞれの持つ資源やノウハウを活用しながら、多様な主体との公民連携による「新しい公共」を実現します。

現総合計画は、公共サービスの提供について、すべて行政が行うことを基本としています。このことから、新総合計画の基本計画においては、「新しい公共」の視点により、

- (ア) 市民、地域等が基本として担う公共サービス
 - (イ) NPO、ボランティア、企業等が担う公共サービス
 - (ウ) 行政が担う公共サービス
 - (エ) 市民、地域と行政が連携して担う公共サービス
- の観点から整理します。

イ 地域分権

市の権限と予算などを市民センター・公民館に分散する「市内分権」と地域経営会議と市民センター・公民館が連携して地域のめざす方向を明らかにし、自助、共助、公助によって地域づくりを進める「地域内分権」を、総称して「地域分権」といいます。

市内分権(権限・予算の移譲)と、地域経営会議と市民センター・公民館等の連携による地域づくりを進めるための地域内分権において、それをつなぐアプリケーション(目的に応じて使う専用プログラム)との間にプラットフォーム(共用の土台)をつくります。

したがって、地域分権を進めていく共通のプラットフォームを、基本計画に位置づけます。

2 基本計画の構成と内容

(1) 基本計画策定に当たっての考え方

現総合計画の課題をふまえ、新たな基本計画は、「ふじさわ未来課題」から長期アウトカムの指標を導き、具体の施策等をつくりあげる設計とします。

基本計画では、長期アウトカム指標を明らかにします。

ア 長期アウトカムの設定レベルは、「政策の目標」「政策の見出し」です。

イ 長期アウトカム指標では、「藤沢づくり」（市域全体のまちづくり計画）「地域づくり」（地域まちづくり計画）のめざすべき成果と満足度を政策目標として明らかにすることとします。

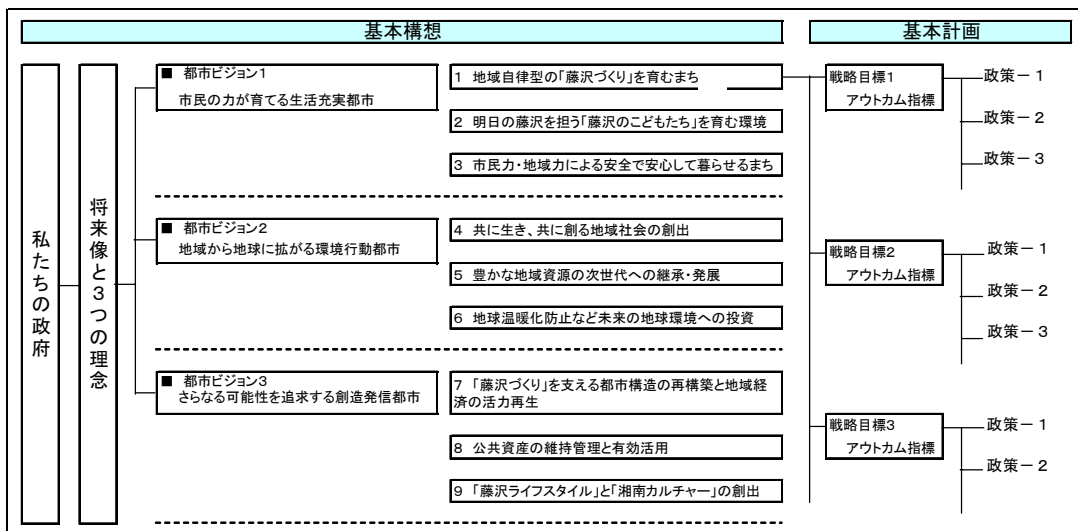


図1 基本計画のフレーム

(2) 基本計画の構成

ア 新総合計画の中での基本計画の役割

基本計画は、将来像、都市ビジョンを実現する上で必要となる情報を体系的に示すものです。基本構想の理念を受け、情報を整理することにより、戦略目標や目標値をしめします。その目標にそって行動体系となる実施計画を導き出します。

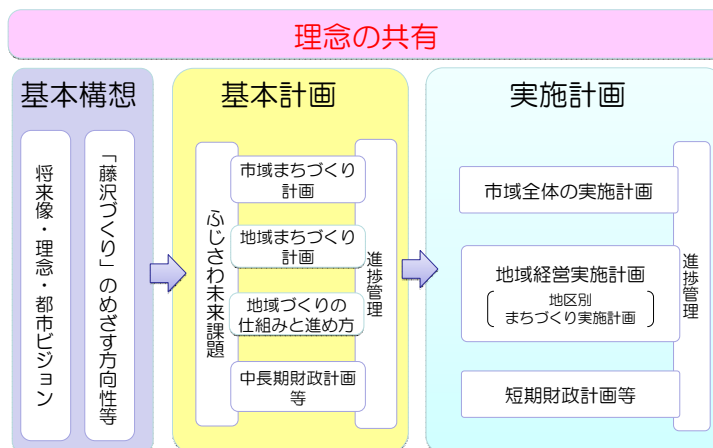


図2 新総合計画の構成

イ 計画期間

基本計画は、前期・後期の12年間（3年毎のローリング¹）とします。

(3) 基本計画の内容

基本構想の理念を受け、次の事項を示します。

ア 基本計画の構成

基本計画には次の事項を記載します。

- (ア) 市域全体のまちづくり計画
- (イ) 地域まちづくり計画
- (ウ) 地域経営会議と市民センター・公民館による地域づくりの仕組みと進め方
- (エ) 進捗管理の方法
- (オ) 中長期財政計画

イ 基本計画の内容

- (ア) 市域全体のまちづくり計画
 - a 「都市ビジョン」と9つの「藤沢づくりのめざす方向性」を達成するための、「戦略目標」と「政策」を掲げます。
 - b 基本となる「戦略目標」とそれを支える「政策」を実現するための活動のあり方、あるべき姿と、それに対応する長期アウトカム指標を示します。
 - c 「気づき」「政策の棚卸」「地域活動の棚卸」から明らかになった「ふじさわ未来課題」を示します。
 - d 藤沢の新たな都市構造の概要を示します。
- (イ) 地域まちづくり計画
 - a 「都市ビジョン」と9つの「藤沢づくりのめざす方向性」を達成するための、地域の「戦略目標」と「政策」を掲げます。
 - b 基本となる「戦略目標」とそれを支える「政策」を実現するための地域での活動のあり方、あるべき姿と、それに対応する長期アウトカム指標を示します。
 - c 「気づき」「政策の棚卸」「地域活動の棚卸」から明らかになった地域の「ふじさわ未来課題」を示します。
- (ウ) 地域経営会議と市民センター・公民館による地域づくりの仕組みと進め方
 - a 基本構想に基づき、地域経営会議と市民センター・公民館は、地域の課題や戦略を、自助、共助、公助の視点に立ち、地域が主体となって責任ある地域自律の地域づくりを行うための仕組みと進め方を策定します。
 - b 地域経営を行い、地域分権を進めるために、各地区の地域経営会議と市民センター・公民館は、地域経営戦略100人委員会等での検討内容をふまえ、「地域市民」の声を聞きながら、原因や背景を分析し、課題と戦略を決定します。
- (エ) 進捗管理の方法
 - a 市域全体のまちづくり計画と地域まちづくり計画のPDCAサイクルに基づく進捗管理の仕組みを策定します。
 - b 政策・施策・事務事業の進捗管理システムを総合計画の執行管理システムとして位置づけるために、アウトカム指標（数値目標）を設定します。
 - c 上位目標（政策の戦略）を設定し、その評価に必要な下位目標を設定するという順序で、演繹的に目標の階層化を図り政策体系を構築します。
 - d 上位に位置する目標（大目標）には、定量的なアウトカム指標が設定されて

¹ローリング 計画の実行→分析・評価→計画の修正・実行というサイクルを繰り返していく方法

いない場合、評価の際には、下位に位置する目標に係る達成度をもって上位概念の達成度が評価される仕組みとします。

(オ) 中長期財政計画

- a 現基本計画・実施計画においては、予算計上されている事業と総合計画の政策・施策と事業との関係が必ずしも明確ではありません。その結果、総合計画予算と財政計画に乖離が生じ、必ずしも中長期の財政計画と総合計画とが連動されていない状況にあります。

したがって、新たな基本計画においては「総花的に列挙されている」政策を改めるとともに、中長期財政計画の最終部分においては、公共資産の有効活用、新たな財源の確保等や歳出面においては、「新しい公共」「行政改革」などの視点を考慮した上で検討する必要があります。

- b 財政計画の背景には、人、もの、金、情報、時間等といった行政経営資産の再配分の視点が重要であり、「新しい公共」の観点から総合計画を資源配分の中長期財政計画を連動させる工夫が必要となります。

3 基本計画における「ふじさわ未来課題」の導き方

(1) 「ふじさわ未来課題」の定義

課題とは、あるべき姿と現実とのギャップであり、このギャップを埋める活動の方向を定め、到達点を「見える化」することにより、着実に目標に到達することが可能となります。

市民力・地域力・行政力を発揮して分析、解明する課題を、「ふじさわ未来課題」とし、基本計画では、あるべき姿と現実とのギャップであり、このギャップを埋める活動の方向を定め、到達点を「見える化」することにより、着実に目標に到達することが可能となります。

市民力・地域力・行政力を発揮して分析、解明する課題を、「ふじさわ未来課題」とし、基本計画では、基本構想で示した流れにそって進めるべき具体的な目標や戦略を示していきます。

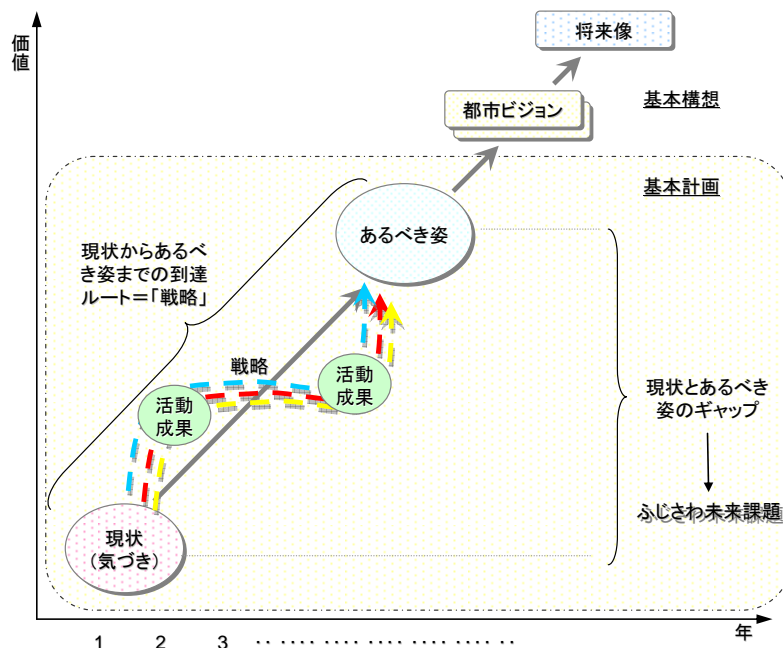


図3 基本計画の課題解決モデル

(2) 「ふじさわ未来課題」の導き方

基本計画における「ふじさわ未来課題」は、「気づき」「行政政策の棚卸」「地域活動の棚卸」より導き出します。

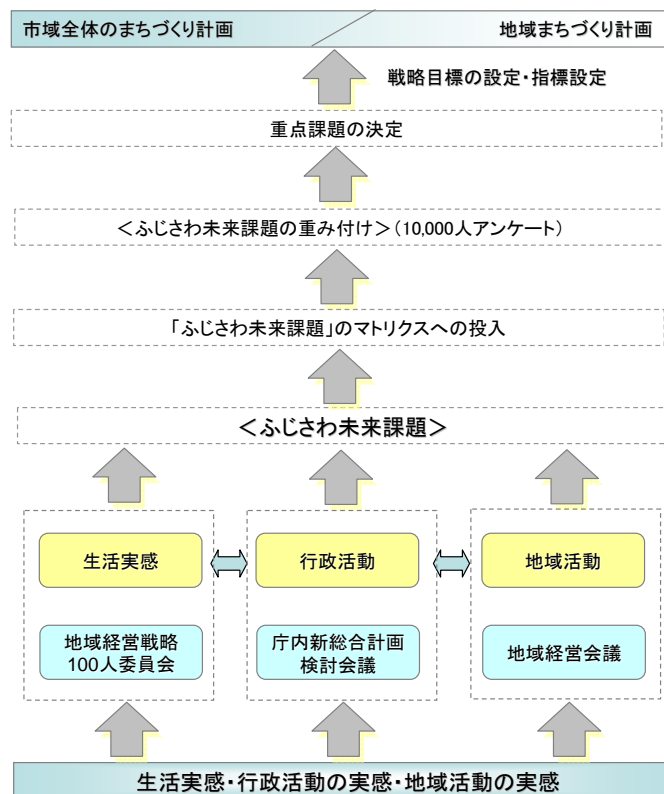


図 4 気づき・棚卸とふじさわ未来課題・計画

ア 生活実感からの「気づき」の収集

市民に対し広範に実施した13,400件の「気づき」調査（収集）から、生活実感に基づく地域のニーズ、課題を収集し、「ふじさわ未来課題」を導き出します。

イ 行政政策の棚卸

(ア) 基本構想に定められた「私たちの政府」の仕組みと「藤沢づくりのめざす9つの方向性」を前提に、行政実感から現政策・施策を精査し、不足する施策、目標を達成した施策、「めざす方向性」にそぐわない施策、新規で入れ込む施策等を整理し、「ふじさわ未来課題」に加えます。

(イ) 整理については、基本構想における「新しい公共」「地域分権」の視点から行います。特に「新しい公共」については、次の視点から整理するものとします。

ウ 地域活動の棚卸

地域内分権を進めるため、自治会・町内会、ボランティア団体、NPO、大学、起業等が地域で行っている自助、共助による活動を把握し、「新しい公共」の視点からパートナーシップの関わり方を整理し、「ふじさわ未来課題」とします。

4 基本計画の評価・見直し

予測困難な社会情勢，経済情勢の変化が生じた場合は，必要に応じて基本計画を見直すものとします。

5 策定プロセス

基本計画は，市民力・地域力・行政力を発揮して策定します。
策定プロセスと各会議体の役割分担については，次のとおりとします。

(1) 「ふじさわ未来課題」の確定

ア 地域経営戦略100人委員会は，市民アンケートにより収集した，生活実感に基づく，「気づき」について，「ふじさわ未来課題」の分類表への埋め込みを行います。

イ 庁内新総合計画検討会議とわいわい・がやがや・わくわく会議は，基本構想の理念と5つの基本条件を踏まえ，現在の藤沢を取りまく将来予測に基づく藤沢の課題（「政策課題の棚卸」）や「藤沢の強みと弱み」に基づく課題を抽出し，「ふじさわ未来課題」の分類表への埋め込みを行います。

ウ 市民センター・公民館と地域経営会議は，自治会・町内会，市民ボランティア，NPOなどの地域活動の主体と内容を整理（「地域活動の棚卸」）して，課題を抽出し，「ふじさわ未来課題」の分類表への埋め込みを行います。

エ 総合計画審議会は，基本計画の策定プロセスを検討・確認し，「ふじさわ未来課題」の分類表の取りまとめや課題に対する助言等を行います。

(2) 「ふじさわ未来課題」の重み付け

ア 各会議体から抽出された「ふじさわ未来課題」を基本構想の「都市ビジョン」と「9つの方向性」に基づき整理し，事務局は，重要度満足度の観点から，無作為抽出した市民を対象とした10,000人アンケート調査を行い，課題の重み付けを行います。

イ 重み付けされた課題のうち，市域で共通して取り組む課題は，市域全体のまちづくり計画に，また地域固有の課題は，地域まちづくり計画へと各計画への割振りを行います。

ウ 地域経営戦略100人委員会・地域経営会議では，重み付けされた結果に基づき，課題の深掘り（分析）を行います。

(3) 基本計画案の策定

ア 市民センター・公民館と地域経営会議は，「ふじさわ未来課題の重み付け」結果及び地域経営戦略100人委員会での検討結果を勘案して，地域まちづくり計画（案）を策定し，地域経営戦略100人委員会において意見交換を行います。

イ 庁内新総合計画検討会議等は，「ふじさわ未来課題の重み付け」結果及び地域経営戦略100人委員会での検討結果を勘案して，市域全体のまちづくり計画（案）を策定します。

ウ 総合計画審議会では，総合的専門的見地から地域まちづくり計画（案）及び市域全体のまちづくり計画（案）に対し意見提案を行うとともに，基本計画案の取りまとめを行います。

- エ 総合計画審議会は、取りまとめに当たり、地域経営戦略100人委員会との合同協議を行います。
- オ 討論型世論調査「藤沢のこれから、1日討論」では、基本計画の役割分担値を期待値とした場合に、当事者として活動できるのか、その障壁となる課題は何かについての討論を行い、目標値を調査するものとします。

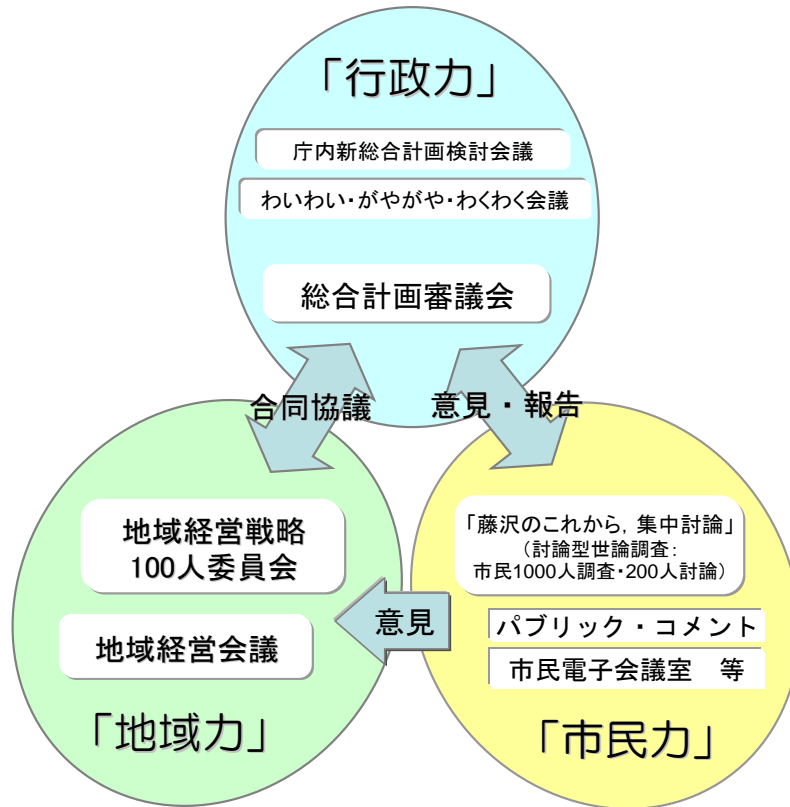


図 5 三層構造の策定プロセス

新総合計画基本計画策定に当たっての作業工程について

第4回100人委員会（11月29日）

- ① 気づきのアンケートの検討

第5回100人委員会（12月12日）

- ② 収集方法の検討

委員の皆さんにご協力いただき、13,400枚のアンケートから、約40,000件の気づきを抽出しました。 → 終了

第6回委員会（2月27日）

- ③ 整理表（ふじさわ未来課題マトリクス）の縦軸項目の検討

3月15日に有志の委員の皆さんとマトリクス項目の検討を行いました。

第7回委員会（3月27日）

- ④ 「気づき」のカードのグループ化と仕分け

第8回委員会（4月18日）

- ⑤ 「気づき」の集約、分類結果の「ふじさわ未来課題」候補のフレーズ検討、アンケート原案の検討

事務局にて作成したフォーマットを基に、今後、地域経営会議と市民センター・公民館にて、地域まちづくり計画案「地区の概況」「地区の特色」「地区の地域資源」「地域づくりのテーマ」「地域まちづくり計画図」等をご検討いただきます。（昨年、取りまとめたいただいた地区の課題等を基に、整理してください。）

委員会での意見を踏まえ、事務局で無作為抽出による1万人アンケートを実施します。
→ 4月下旬から5月上旬

第9回委員会（5月16日）

- ⑥ アンケートの重み付け結果の公表、重点的に取り組む未来課題の分析（深掘り）
⑦ 市域全体の課題と地域の課題に分類します。

地域経営会議と市民センター・公民館は、重み付け結果から地域課題を絞り込みます。
地域経営会議と市民センター・公民館は、1万人アンケート及び地域課題の深掘り（分析）を踏まえ、地域の戦略目標と指標づくりを行い、地域まちづくり計画（1次案）の策定作業を行います。

領域の委員の皆さんは、行政担当部署との意見交換等を行いながら、市域全体の課題

の深掘り（分析）をしていただきます。

→ 5月16日以降6月中旬まで

第10回委員会（6月5日）

- ⑧ ふじさわ未来課題の深掘りの結果や目標設定の経過について、各地区よりご報告いただきます。「まちづくり指標」の「現状値」調査と「めざそう値」「役割期待値」の調査方法等の検討を行います。

地域では、引き続き地域まちづくり計画（1次案）の策定をいただきます。

領域では、引き続き、行政担当部署との意見交換等を行いながら、市域全体の課題の深掘り（分析）をしていただきます。

気づきの深掘りから見えてくる、実施計画に位置づける事業を書き留めていただきます。（実施計画の事業候補となります。）

→ 7月上旬まで

第11回委員会（7月3日）

- ⑨ 各地区や領域での取組状況の報告等をいただきます。また、総合計画審議会との合同協議において、地域経営会議と市民センター・公民館は、地域まちづくり計画（1次案）の報告をしていただきます。

地域では、地域まちづくり計画（2次案）の策定をいただきます。

また、地域まちづくり実施計画案の検討と策定を並行して進めていただきます。

領域では、市域全体のまちづくり計画に関する、「現状値」調査と「めざそう値」「役割期待値」にむけた行政担当部署との意見交換や、実施計画に向けた協働事業の提案等をいただきます。

→ 8月中旬まで

第12回委員会（7月31日）

- ⑩ 検討経過の報告

第13回委員会（8月21日）

- ⑪ 地域まちづくり計画（2次案）の報告

総合計画審議会では基本計画の答申として取りまとめます。

→ 10月上旬

実際の活動、事業、予算等については、地域まちづくり計画に基づく実施計画で検討します。

ふじさわ未来課題のフレーズ校正シート

課題番号	
------	--

元のフレーズ

イメージが膨らむフレーズ

理由や配慮した点など

提案グループ	
--------	--

ふじさわ未来課題について



平成22年4月18日

地域経営戦略100人委員会（Team238）

「ふじさわ未来課題」：

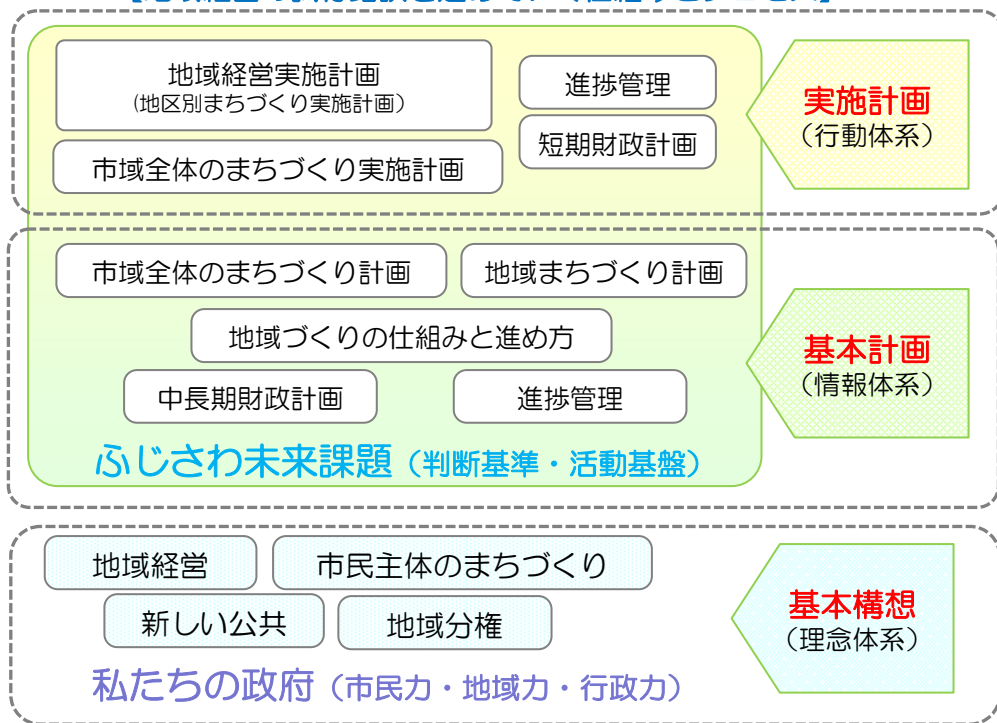
(※課題とは＝改善すること&伸ばすこと)

- ① 将来像“いまも未来も住み続けたいまち「湘南ふじさわ」”を実現するための「課題」
- ② 基本構想で掲げた「藤沢づくりのめざす方向性（9つ）」に取り組む際の「課題」

前提として

- 1. 理念（基本構想）を行動（実施計画）をつなぐ、**情報体系（基本計画）が必要**
- 2. 各地区での行動と全市の行動の相乗効果を促す、**藤沢づくり（藤沢のまちづくり）の共通基盤が必要**
- 3. 行政だけでなく、生活者にも地域にも、**まちづくりを考えやすくする入口が必要**

【地域経営の試行錯誤を進めていく仕組みとプロセス】



基本構想で掲げた「藤沢づくりのめざす方向性」

- 1. 地域自律型の「藤沢づくり」を育むまち
- 2. 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育む環境
- 3. 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち
- 4. 共に生き、共に創る地域社会の創出
- 5. 豊かな地域資源の次世代への継承・発展
- 6. 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資
- 7. 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生
- 8. 公共資産の維持管理と有効活用
- 9. 「藤沢ライフスタイル」と「湘南カルチャー」の創出

基本計画の役割：「基本(=土台・基盤)」となる計画

- ◆ 「基本構想(20年間のビジョン)」と「実施計画(3年間の計画)」を結ぶ
「基本(=土台・基盤)」となるもの
 - ① 「藤沢づくり」と「地域づくり」の中期計画として、課題や指標・具体的方向性を示す。
 - ② 「基本計画」と「実施計画」をつなぐ「中長期財政計画ビジョン」の方針を示す。
- ◆ 政策や施策のPDCAサイクルの進捗管理等の方針を示し、12年間(3年ごとのローリング)を想定。予測困難な情勢変化が生じた際には、必要に応じて見直す



ポイント1. 様々な視点で「課題」を見つけ、メリハリを付けて整理する

- ★ 未来を実現するための「課題(=改善すること&伸ばすこと)」を、様々な視点で徹底的に洗い出す。
(①生活実感から洗い出す& ②活動実感から洗い出す& ③行政実感から洗い出す)
- ★ 政策・施策の重点化と目標の設定のために、メリハリある形で整理する(重み付けをする)。



ポイント2. 「課題」を「共通の目標」として視るための指標をつくる

- ★ 「課題の深掘り」を経て、地域や領域の現状を測れる「指標」を設定する。
- ★ 様々な主体が共通の目標(指標)を持ち、協働で評価できるようにする。
- ★ 各地域の特徴を反映した「地域まちづくり計画」にも「課題」や「指標」を位置づける。



ポイント3. PDCAサイクルの「進捗管理システム」を位置づける

- ★ 持続的なPDCA(Plan-Do-Check-Action)のサイクルを回すための仕組みを設計する。
- ★ 全市域と各地区で、相乗効果が出るように共通の枠組みを設計する。
- ★ 「基本計画」と「実施計画」をつなぐ「中長期財政計画ビジョン」の方針を示す。

① 丹念に「気づき（活動実感・生活実感・行政実感）」を収集



- ・気づきアンケート13400件回収（有効回答12365件）
⇒ 発言数：41156発言（4/18時点：一部カウント中）
- ・100人委員会と地域経営会議による調査、庁内プロジェクトやワイガヤ会議の調査、ワールドカフェのログ、電子会議室やDPでの発言、市民活動団体の活動理念調査、過去の各種調査…等から収集

↓ 発言集約の準備

「気づき」の調査項目（例）：100人委員会の場合

1. 最近実感した、藤沢市内での何か良いこと、楽しい・うれしい・心地よい経験
2. 藤沢市で生活／活動をしていて、気づいたこと、気になったこと
3. あなたの地区・領域の魅力・自慢・伸ばすこと
4. あなたの地区・領域の改善すべきこと
5. この先「藤沢市で暮らす・活動する中でこんなことができたらなあ」と思うこと

② 藤沢の「未来の状態」として表現を整理



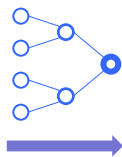
- ① ~
- ② ~
- ③ ~
- ・様々な発言を集約するために、元の文章より、藤沢の「未来の状態」として箇条書きに整理
⇒ 抽出数：59119件（4/18時点）

↓ 類似発言の集約

【課題の分析（深掘り）に活用】

「未来課題」の背景には、どこでどのような「気づき」や「未来の状態」が指摘されていたかを参考に分析可能（→評価指標を設定する）

③ 類似の発言をまとめた「未来課題の種」の作成



- ・類似の発言を束ねる作業を行い、その共通性を確認し、抽象度を高めた「未来課題の種」を検討して集約
⇒ 集約数：450件

↓ 藤沢づくりを見据えてさらに整理

＜全市共通の課題＞
市域まちづくり計画
市域全体のまちづくり
実施計画

＜地区毎の課題＞
地域まちづくり計画
地域経営実施計画
(地区別まちづくり実施計画)

1万人アンケートで「課題」の重点化

④ 「藤沢づくりの方向性」と結び付ける「マトリックス」に分類

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A									
B									
C									
D									
E									
F									

- ・収集・整理・集約をしてきた結果として作成された「未来課題の種（未来の状態の集約）」と藤沢市の都市づくりの方向性を結び付ける「マトリックス」に100人委員会で分類

⑤ 「ふじさわ未来課題」を作成

- ・マトリックスの各マスの分類を踏まえ集約
- ・藤沢市の都市づくりを実現するための課題として88件の象徴的なフレーズに



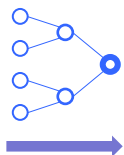
① 丹念に「気づき（活動実感・生活実感・行政実感）」を収集

少し歩くと畑があり、土地で取れた物を販売している。



② 藤沢の「未来の状態」として表現を整理

- 1 徒歩圏内に畑があること
- 2 土地でとれた物を販売していること



③ 類似の発言をまとめた「未来課題の種」の作成

- 1 身近な田園が豊かに整備されていること
- 2 地産地消が進んでいること

④ 「藤沢づくりの方向性」と結び付ける「マトリックス」に分類

- 1 (5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展
× (A) 市民生活の安定 (安定・落ち着き安らぎ)
- 2 (7) 「藤沢づくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生
× (B) 市民生活の豊かさ (役に立つ・便利・快適・楽しい)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A					●				
B									
C									
D									
E									
F									

⑤ (他の"種"と組み合わせて) 「ふじさわ未来課題」を作成

- 38 快適に暮らせ、居心地のいいまちであること
- 62 安全で安心な食べ物が身近で得られること

3. 「ふじさわ未来課題」の使い方

【ふじさわ未来課題の整理表を作成】

地区・領域から集めた生活実感・活動実感、行政実感を、相乗効果が出るように活用するために、一つの枠組みに整理する

(深掘り時に活用するために、もとの発言や出所がわかるようにしておく)

生活実感

活動実感

行政実感

ふじさわ未来課題

全市版

13地区版

【地域ごとのメリハリ】

全市調査を行い、地域ごとにメリハリ付けをする

(※「実現度・重要度調査」を実施)

	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

	A	B	C	D
	E	F	G	H
	I	J	K	L

【まちづくり指標の設定】

“気づき”の深掘りを経て、「ふじさわ未来課題」に取り組む際の「まちづくり指標」を設定する

ふじさわ未来課題

	A			
	B			
	C			
	D			
	...			

	A			
	B			
	C			
	D			
	...			

	A			
	B			
	C			
	D			
	...			

【指標達成への取り組み方を設定】

「まちづくり指標」の目標設定とその達成に向けた主体と活動の計画を設定

まちづくり指標

●	
●	
●	
●	

「現状値」
「めざそう値」
「役割期待値」
(活動計画)

●	
●	
●	
●	

●	
●	
●	
●	

【定義】

『魅力度』 = 「実現度（“よく出来ている”と“大体出来ている”の和）」×重要選択率

『二一ズ度』 = 「未実現度（“あまり出来てない”と“出来ていない”の和）」×重要選択率

【分析対象】

- A) 全体 … 全市の傾向
- B) 地区別 … 地区別の傾向
- C) 年代別 … 年代別の傾向
- D) その他 … 地区間での類似傾向など（検討中）

【抽出方法】

「未来課題」の各項目の魅力度・二一ズ度で、
縦軸・横軸ごとに傾向を確認の上、
一定数値（例：平均値）以上の項目を抽出

